



ダイバーシティって？

初めてダイバーシティという言葉が教育雑誌の表紙で見たとき、

「diver（潜水士、ダイバー）が集まる city って何だ？」と勘違いをして笑われた。ダイバーシティと書かずに、多様性と日本語で書いてくれれば笑われずに済んだのに…知識ある方から city ではなく diversity だと学ばせていただいた。

あれから〇年、ダイバーシティは様々な場面で使われ、私の脳にも抵抗なく入るようになった。改めてダイバーシティについて考えてみたい。

ジーニアス英和辞典では、「多様(性)、雑多、相違、差異」など。

ネットで検索すると

「集団において年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好など、様々な属性の人が集まった状態」とあり、もともとは人種問題や雇用機会の均等などを説明するときに使われていたとか。現在では、多様な人材を活用することで、組織の生産性や競争力を高めるために必要とか。

まあ、これだけグローバル化が日本でも進み、県内でも多くの外国籍の人が暮らしている。

県内のある小学校ではクラスの10%程度が外国籍の児童という学校もあった。

一度見学したことがあるが、インド、パキスタン、ブラジル、ロシア等々の国籍の子が在籍。猛勉強し活発に発表する子もいれば、全く日本語がわからず、困っている子もいた。

まさしくダイバーシティ(多様性)が、そこにあった。

氷見にいとダイバーシティやグローバルについて考える機会は少ないかもしれない。

だけど、目の前の生徒は、もうすぐグローバルな世界に飛び込み、ダイバーシティを認め合いながら、仕事をしていくことになる。

ダイバーシティは、障がい者やLGBTQの問題にも直結することだ。

その時に「diverが集まる city って何だ？」と笑われないよう、自分の考えをもてる機会を与えてやりたい。

「あの人、みんなと違うよね」と排除するのではなく、「ああいう人もいるよね」と認める。

そういうところから、多様性を認め合う社会が育ち、イノベーションが起こるように思う。

いじめを生まない校風が育つし、生徒会のテーマにも当てはまるのでは？

“違い”に直面したときは、平静を保ち、包み込んで、多様性を祝福しましょう

ジョージ・タケイ（日系ハリウッド俳優 スタートレック等に出演）

7月に多様性についての講演会を行う予定です。是非、この機会に考えましょう。